

◆ ライフスタイル

世代超えてシェアハウス



上ぼっと館で開かれる手芸教室。外出前の椎名さん（左から3人目）も顔を出し、
た=東京都江戸川区でバイオリンを弾
ける住民が企画して始まった歌の教室=



同様の取り組みは、東京練馬区の光が丘団地でも始った。都市再生機構（UR）の3LDKを高齢者1人と、者2人で借りる仕組み。家は高齢者約12万円、若者約10万円を予定しており、現在入居者を募集中だ。

企画した地元のNPO「すび」の荒川直美さんは、「高齢者に高齢者の介護をさせるではなく、互いに助け合い異世代交流を通じて新たな価値観を知る機会にしてほしい」と狙いを語る。

●団地内交流の場も

企画した地元のNPO「すび」の荒川直美さんは、「者に高齢者の介護をさせるではなく、互いに助け合い異世代交流を通じて新たな価値観を知る機会にしてほしい」と狙いを語る。

同様の取り組みは、東京練馬区の光が丘団地でも始つた。都市再生機構（UR）の3LDKを高齢者1人と者2人で借りる仕組み。家は高齢者約12万円、若者約15万円を予定しており、現在入居者を募集中だ。

●緩やかにつながる
「住み慣れた街で、必要
応じて助け合う緩やかなつ
がりを大切にしたい」
同様の取り組みは、東京、
練馬区の光が丘団地でも始
った。都市再生機構（UR）
の3LDKを高齢者1人と
者2人で借りる仕組み。家
は高齢者約12万円、若者約
10万円を予定しており、現在
入居者を募集中だ。

と体調を気遣つてもらえて、心の支えになつてゐる」
若者に人気のシェアハウスだが、ほつとコミュニケーションティーンどがわの理事、藤居阿紀子さんは「高齢者こそうまく利用できるのではないか」とみる。介護施設は基本的に高齢者ばかりで、外出や食事などの自由は少ない。在宅でその人らしい生活を続けられれば、保護予防にもつながるのである。

●夜間守る「若者枠」

東京都江戸川区の「ほっと館」は、高齢者と若者が一緒に暮らす共同住宅。高齢者の居場所作りに取り組むNPO「ほっとコミュニティえど」が「わー」が運営する。トイレと鍵の付いた個室が10室と、共有のリビングやキッチン、風呂がある。

リビングで住人と地域の人が一緒に樂しめる手芸教室や食事会を開く。介護保険を利用して介護サービスを受ける人もいるが、夜はスタッフが不在になるため、いざという時に備え2室を「若者棟」とした。現在の住人は、95歳を筆頭に65歳以上が8人と、20代が2人。家賃・管理費は月約11万円（食費は別）だ。

上野富子さん（77）は5年前、夫との死別を機に区内の

●「家族みたい」

若い世代にも「同居」のメリットはあるようだ。08年から暮らしている椎名学さん(27)は、高齢者の夜間のトイレを介助したり、急病時に病院に付き添ったりする。パソコンや電化製品の使い方を教えることも。「慣れると家族みたいな感覚。帰宅が遅れる

●緩やかにつながる

九十七

若者の入居を促して世代間交流を生み出すケースも目立つ。

東京都板橋区の高島平団地では、08年度から5年間、近くにある大東文化大学が、入居する学生の家賃を補助。5年間で延べ87人が入居した。学生は家賃補助を受ける代わりに、特技を生かして語学や書道などの講座をボランティアで開く。入居支援は昨年度で終わつたが、講座は今も盛況だ。

若者の入居を促して世代間交流を活性化させ、地域社会に貢献する取り組みとして、兵庫県の神戸、明石両市にまたがる明石舞子団地は11年度から、県営住宅を近くの大学の学生寮としている。学生は自治会活動への参加が義務付けられ、入居中の7人は見回り活動などに励む。家賃は月1万400～1万7300円。周辺相場の半額以下だ。自治会長の小高平さん(77)は「若い人がいるだけでも団地の活気が違う」と声を弾ませる。

東京都板橋区の高島平団地では、08年度から5年間、近くにある大東文化大学が、居住する学生の家賃を補助。5年間で延べ87人が入居した。学生は家賃補助を受ける代わりに、特技を生かして語学や書道などの講座をボランティアで開く。入居支援は昨年度まで終わったが、講座は今も盛況だ。

書道講座を訪れる佐藤佳弘さん(68)は、時々学生に食事をごちそうし、昨年は結婚式に招かれた。「団地内の近所付き合いのきっかけにもなった」と喜ぶ。教える側の文学部3年の江本桃子さん(20)も「高齢者の皆さん気がさくて楽しい。高校の書道教師を目指しているので、自分の力はもなる」と話している。